

本を選ぶ

NO.487 2025年(令和7年)12月20日
●発行／ライブラリー・アド・サービス

<https://www.las2005.com>
本社 〒114-0002 東京都北区王子4-23-4 TEL=03-6908-4643

- <ろん・ぽわん>鳥の言葉 続
- 司書の眼(第60回)
- Z世代による映画の新しい楽しみ方—



● ● ● ● ● ろん・ぽわん ● ● ● ●

鳥の言葉 続

『僕には鳥の言葉がわかる』(鈴木俊貴 著／四六判並製／小学館／2025年)はついに20万部を突破したそうだ。去年の7月に鈴木さんの研究を紹介しながら、こちらもシジュウカラの言葉「ピーツピ・ヂヂヂ」にはまってしまった。『動物たちは何をしゃべっているのか?』(山極寿一・鈴木俊貴 著／集英社／2023年)は共著で山際氏との対談だったが、今回は自身の本がこの快挙。出版元の小学館にはこの本の特設ページも出現し、文字通り「羽ばたき続けて」いる。

古代の哲学者アリストテレスは、動物の鳴き声は快不快の感情表現に過ぎず、人間の言葉のような意味を表すものではない、と言っているそうだ。つまり言葉を使えるのは人間だけだと断定している。以来、言語学者はそれをそのまま受け継いできた。逆に言えばそういう動物学の研究がなかったのだ。あの進化論のダーウィンも、動物行動学者でノーベル賞受賞者であるローレンツ博士さえもアリストテレス説に異論がないままだ、そう鈴木さんは悔しがっている。そして、こうした不思議な妄信(!?)を見事覆したのだ。シジュウカラたちはそうとは知らず今日も言葉を交わし合っているはずだ。

鈴木さんの研究に最後まで異を唱えていたのが言語学者だった。鈴木さんはこうした意見論文(反対意見)に対して丁寧に反論したという。そして遂に反対意見を書いていた言語学者の理解を得たのだ。一転してシジュウカラの言語を認め、「他の動物においても(中略)きちんと検証すべきだ」と言わしめた。二千数百年来の呪縛を解いたと言えれば大げさか。いやそうではない、鈴木さんの業績は高く評価され東京大学で准教授の研究室をもち、動物言語学領域の創始者となったのだから。

鈴木さんの発見はさらに続く。「お先にどうぞ」を意味する翼のパタパタを「僕は発見した。シジュウカラの言葉は鳴き声だけではない。なんと、「ジェスチャー」まであるのだ!」。シジュウカラの親鳥たちは離にえさを届けるときにタイミングが重なった場合、言葉ではなく翼をパタパタと動かして「お先にどうぞ」と譲るという(雌よりも雄の方がが多いらしい)。こうしたシジュウカラの翼パタパタ意思伝達行動を324回観察して「お先にどうぞ」ジェスチャーの意味を立証したのだ。鳥類の翼は飛ぶためと思い込んでいる鳥類学者たちや、ジェスチャーをするのはヒトに近い動物だけだと考えている靈長類学者に新風を吹き込んだのではないだろうか。

鈴木さんは、どういう観察や実験をしたのか、その観察の意図は何なのかについて十分説明してから、観察や実験を繰り返した一部始終について平易に語っている。小学生にわかるように書かれた実に優れた本であるのは間違いない。(塙村太郎)

司書の眼 第60回

——Z世代による映画の新しい楽しみ方——

鷹野 祐子

最近、映画ハリー・ポッターを見直している。ハリー・ポッターシリーズは、イギリスを舞台に魔法使いの少年ハリー・ポッターが仲間たちとともに魔法学校で成長し、冒險を繰り広げるストーリーで、両親が亡くなり叔母さんの家で育った少年ハリーにある日魔法学校から入学許可証が来るところから始まる。ハリーが魔法学校ホグワーツに入学し、学校生活や友達、家族、精神的な成長と仲間、宿敵との対決といった流れですすみ、ホグワーツの全7学年まで1巻1学年でつづく。つまり映画も本も新学年の始まる9月1日から夏休み前までの1年間を1作品として進んでいく。

作者のJ・K・ローリングが『ハリー・ポッターと賢者の石』を出版したのは1997年でもう30年近く前になる。J・K・ローリングは、エジンバラで生活保護を受けながら喫茶店でこの第一巻を執筆したというのは有名な話である。その後世界中で大流行し、イギリスの知人の家で「これを子どもに読み聞かせしたことがない親はイギリスにいない」と紹介された静山社社長でもある英語同時通訳者の松岡佑子が、1999年に賢者の石の日本語翻訳版を発行した。

『ハリー・ポッター』シリーズの歩み

その後は、第2作『秘密の部屋』1998年（日本版2000年）、第3作『アズカバンの囚人』1999年（日本版2001年）、第4作『炎のゴブレット』2000年（日本版2002年）、第5作『不死鳥の騎士団』2003年（日本版2004年）、第6作『謎のプリンス』2005年（日本版2006年）、第7作『死の秘宝』2007年（日本版2008年）発行で完結する。ちなみに後日談として第8巻『ハリー・ポッターと呪いの子』が脚本として発売されて完結となるが、73言語に翻訳され、全世界累計発行部数は2024年の時点で6億を突破、史上もっとも売れたシリーズ作品と呼ばれている。日本でも発売日に書店に長蛇の列ができ、公共図書館で複本を50冊購入してもリクエスト件数が400件以上になって、出版物の売り上げを阻害していると報じら

れていたのを記憶されている方もおられるだろう。ワーナー・ブラザース・ピクチャーズによる映画版は、まだ原著が完結していない2001年に第一作の賢者の石を公開、子役として活動していた主人公ハリーのダニエル・ラドクリフ、ハーマイオニーのエマ・ワトソン、マクゴナガル先生のマギー・スミス、スネイプ先生のアラン・リックマンをはじめ、2011年の死の秘宝Part2まで1～2年に一本のペースでほぼ同じ俳優が演じた。エマ・ワトソンはシリーズ7作で約6000万ドル（日本円で約63億円）を稼いだといい、ダニエル・ラドクリフも歴史上最も多くの報酬を得た。作家J・K・ローリングも億万長者だ。

ハリー・ポッターは2010年のユニバーサル・オーランドリゾートのウイザーディング・ワールド・オブ・ハリー・ポッター™（USJは2014年）、2023年のワーナー・ブラザース・スタジオツアー東京「メイキング・オブ・ハリー・ポッター」などのアトラクション施設も多く作られ、物語に出てくる横丁や、動く階段、魔法での移動など物語の世界観を実際に体験できる。2026年は映画『ハリー・ポッターと賢者の石』の公開25周年だそうで、いろいろなイベントがあるらしい。巷のファストファッショントラボでスリザリン寮のクィディッチ・カーディガンを買ってテンションが上がっている。

ネット動画配信サービスの普及によって、昔の映画を何度も好きな時に見ることが可能になった。ハリー・ポッターシリーズは、特に難解で最初の「賢者の石」にヒントがあつたり、最初の決意が翻つたり過去と現在が行きつ戻りつ進行していくので、どうしても何度も見直したくなってくる。実際今までに何度見たのか、といわれたら原作も複数回、映画も10回近く見ているような気もするが、まだ謎に思うことがはつと現れる。実に緻密な設定なのである。発売当初は先が気になって原書で読んでいたような気もするが、登場人物の描写に「訛り」を多用

しているので微妙なニュアンスの英語が難しく、静山社の日本語版を楽しみに待って読んでいた。そういえば、『ハリー・ポッター』シリーズ1巻『賢者の石』の表紙は、あの暗い青紫のカバーにおどろおどろしい魔法使いとフクロウがいる表紙から2、3回変わっていてアニメ調だったり赤金だったりするので、書店で探してみてほしい。まあ、『羅生門』や『人間失格』、『山月記』、『汚れつちまつた悲しみに』が文豪ストレイドッグスコラボの表紙になっている時代なので、あまり目新しいものでもないか。

多様な映画体験

TikTokでの映画あらすじや、世界中の短編映画が見られるアプリなど、タイムラインには数分で完結するショート映画の話題が流れる。タイパ・ブームのおかげで日常の隙間に物語を差し込むような新しい習慣が広がり、一方でネット配信を開けば、120分を超える長編映画やアニメ・ドラマシリーズ、昔のインディーズ映画が気軽に再生できる時代になった。そんな中、最近のニュースではZ世代が映画館を再び利用するようになったと報じられている。スマホ漬けの世代だからこそ、映画館という“オフラインの特別な空間”に価値を見出し、SNSで感想を共有する流れが新しいブームを生んでいるのだそうだ。いわゆる推し活の一部というか。スクリーンの大きさや上映時間に縛られない多様な映画体験に加え、「映画を見るという行為」そのものが再び生活に入り込みつつある。ツールは何にしろ、このような多様な映画体験は、単なる暇つぶしではあるものの、期せずして自分自身の生き方を問い直すきっかけにもなりうるだろう。例えば、ここではあまりメジャーではない映画を取り上げてみる。配信で見られる方はぜひ見てほしい映画だ。

家族関係と自分探し

人はなぜ「家族の中の自分の役割」という最も身近で安心できるはずの場所について悩み、時に外へ踏み出し、自分を探そうとするのだろうか。インド映画「マダム・イン・ニューヨーク」は、旧来の家族関係の中で母親という役割を立派に果たしながらも、「やりがい」「生きがい」という自分探しに迷走

し、周囲の期待も満たしつつ新しい挑戦によって自らのアイデンティティを取り戻していく「どこにでもいる」スーパーワーマン物語である。家族の中で「母」としての役割を課され縛られながらも、彼女は新しいことにチャレンジし、家族の外に広がる世界とつながる。新しい可能性も見出しながらも、今いる役割を最適化する。そこには、家族の枠を超えた活動をしつつも家族の枠内で自分を再発見する喜びがあった。そして、彼女が変わることで家族関係が進化していき、それぞれが生きやすくなっていく。誰かの犠牲になって関係を維持するということの不健全さを改めて考えさせる映画だった。

世界中の映画の中には、「父と息子の関係」を変える映画も多い。スペイン映画「星の旅人たち」は、息子の死をきっかけに父が巡礼の旅へと歩み出す姿を描いている。アメリカの眼科医トムは、そりが合わず、世界を旅していた一人息子ダニエルと長らく疎遠だった。ある日、ダニエルがスペイン北部の聖地への巡礼の途上で命を落としたという知らせを受け息子の遺体を引き取りに現地へ赴く。突然の訃報に打ちひしがれたトムは、そこでやおら息子の遺品であるバックパックを背負い、ダニエルが歩むはずだった巡礼の道を自ら歩き始めるのだ。おやまあ病院の仕事はどうするの?と思いつつも、日本の四国お遍路にも似たスペイン北部の聖地サンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼は峠あり谷ありで美しくもかなり険しい道のりである。遺体を引き渡したフランス警察の警部はもちろん彼を止めるが、息子の意志を継ぐよう始まった旅は、やがて父親自身の人生を問い直す契機となる。道中、トムは心を閉ざしていた一心に歩みを進めていくが、休憩所や宿泊地で偶然一緒に旅を続けるようになった人たちと共に峠を越え、旅を続けることで、少しずつ心を開いていき、亡くなった息子の存在を強く感じていく。道中の各地で遺灰を少しずつ撒き、息子との旅を追体験しながら息子との絆を再確認し、やがて到着した聖地で息子との別れを果たす。家族の喪失を抱えた父親が旅や仲間を通じて自己を見つめ直し、息子へ自分への怒りから抑うつを経て受容し

再出発する姿を描いている。巡礼道はユネスコ世界遺産にも登録され、1000年の歴史をもち、最後は海に到着する。いつか実際にフランスから、スペインから巡礼道を歩いてみたいなあと思うほど、美しい街道で、信仰を目的としない旅人にも門を開けてくれているという。

藤本タツキ『妹の姉』にみる分子間相互作用

映画「チェンソーマン」がヒットしている。少年デンジが「チェンソーの悪魔」の力を手に入れ、悪魔でありながら人々のために戦うヒーローが主人公である。電動鋸のチェンソーが頭部にある衝撃的なビジュアルなので、私自身読破していない。しかし、作者である藤本タツキは2024年に評判となつた映画「ルックバッック」の原作者で、「藤本タツキ17-26」は藤本タツキが17歳から26歳までに描いた読み切り短編作品をアニメ化した映画である。その中に収録されている「妹の姉」は、姉妹の関係性を「大好きなお姉ちゃん」という独特の視点で描いた作品だ。姉にあこがれいつも姉を追いかけていた姉が、ある日ある時姉と同じ位置にいて、そして姉をいつのまにか追い越していく。ちいさかった妹を見守る姉の優越感とその後の敗北感。そして「姉」の意地と「妹」の無邪気な思慕。これは同姓の姉妹・兄弟あるあるだと思うが、親子や先輩後輩、上司部下など上下関係と相互作用によって、二人の間には競争心と愛情が同居し、時に衝突しながらも互いを必要とする分子間相互関係が浮かび上がり、相対する物質同士は安定した距離を中心に運動を続けることで安定した関係を築くことができるという定理に終着する。姉妹は互いの鏡であり、相手を通じて自分を知ることのできる唯一無二の存在だ。

伊藤計劃が遺した問いかけ

これらの映画は、家族という枠組みの中で生きる人間が、外の世界に触れることでお互いの関係を再認識し、家族の中の自分を見つけ直す姿を描いていると思う。家族は人を守る一方で、時に人を縛る。だからこそ、人は外へと歩み出し、旅や挑戦を通じて「家族とは何か」「自分とは何か」を問い直すのだ。家族や個人の関係を描いた映画か

ら一步外に出ると、そこには「社会」という大きな枠組みが待っている。人間は家族の中で役割を担い、旅や挑戦を通じて自己を見つけ直す。しかしその自己は、国や社会の仕組みの中で再び揺さぶられる。ここで思い出すのは伊藤計劃のデビュー作品で長編SF小説の『虐殺器官』(早川書房/2007)だ。

伊藤計劃は、2007年に長篇『虐殺器官』でデビューし、わずか2年後34歳で亡くなったSF作家である。幼い頃から喘息の治療を経験し、癌の発症後は手術や抗癌剤治療を繰り返してきた彼の遺作『ハーモニー』(早川書房/2008)は第30回日本SF大賞を受賞した。『虐殺器官』では、国家がいかにして人々の心理を操作し、暴力や虐殺を生み出すかをテーマにしている。主人公のアメリカ軍兵士クラヴィスは、組織の命令に従いつつも自分の意思をもち常に生き方を考えている。核爆弾テロによって世界中で戦争・テロが激化している中先進諸国は厳格な個人情報管理システムを構築し人々を管理監視しテロの脅威に対抗していた。その後テロの脅威は減り後進国では内戦と民族対立による虐殺が横行するようになっていた。事態を重く見たアメリカは新たに情報軍を派遣し戦争犯罪人の暗殺を陰で行うようになり、主人公クラヴィスは任務に赴く。この作品が作られた2006年に個人の認証という「見えない仕組み」が人間を支配する恐ろしさが表現されており、未来を見るを感じる。人は自分の意思で生きていると思い込んでいても、実は情報や社会の構造に影響をうけ操作されているのだ。「マダム・イン・ニューヨーク」や「星の旅人たち」が描いた「家族の枠から自己を探す」姿とは対照的に、『虐殺器官』は「社会の枠に絡め取られ埋没する個人」を描いている。

さらに伊藤計劃のもう一つの作品『ハーモニー』では、このテーマをさらに極限まで推し進め、健康と幸せという閉鎖空間に生きる「日本」では、人々の争いも病気もなく、すべてが「調和（ハーモニー）」に包まれている。しかしその調和とは、個人の意思や自由、選択を奪うものもある。主人公霧慧（きりえ）トアンは高校生の時の友達との完全調和な世界に反旗を掲げるが、たくらみが

失敗し友達は離別する。その後、WHO螺旋監察事務局の上級監察官となり、政府の監視の行き届いていない辺境や紛争地帯で活動していたが、ある事件により日本に戻ってくるところから話が始まる。人々は「自分の意思で生きている」と信じながら、実は社会の仕組みによって「死ぬこと」さえ操作されている。ここでは家族や個人の関係を超えて、「人間そのものの存在意義」が問われる。映画ではなぜかLGBTQ的に描写がされているが、この作品は原著のほうがおもしろかった。伊藤計画が『虐殺器官』や『ハーモニー』で描いたのは「社会の中での自己喪失」なのか。人間は家族の中で守られ、時に縛られ、社会の中でさらに大きな力に操られる。では、その中で「自分とは何か」を問いかけることは可能なのだろうか。伊藤計画については、闘病との病跡学的な考察が『からだでしかないじぶん：癌患者としての伊藤計画と創造性』風野春樹（精神神経学雑誌 122: 41-46, 2020）に詳しい。

オンラインを楽しむ答え

映画館でスクリーンを見上げるとき、私たちはただ物語を消費しているのではない。そこに映し出されるのは「自分自身の姿」だ。母親が挑戦する姿に自分を重ね、父親が息子を失って歩む姿に自分の喪失を重ね、国家に操られる人々に自分の不自由さを

重ねる。映画は、家族や社会の中で揺れる私たちの心を映す鏡である。

そして最後に思うのは、映画を見終えた後の小さな余韻だ。ハリー・ポッターを見直しているときも、ふと「この魔法が現実にあったら」と考えてしまう。「星の旅人たち」を見ているときも、「巡礼道を歩いてみたい」と夢想する。「マダム・イン・ニューヨーク」を見ているときも、「英会話教室に通ってみようかな」と思う。映画は大きな問い合わせながらも、日常の小さなキズキへと私たちを導いてくれる。

人生は壮大な物語であると同時に、日常の積み重ねでもある。だからこそ、映画を見終えた後に「あの場面よかったです」と話し合えることが大事なのだ。友達や家族とみるのではなくても、自分自身に向けて共感し問い合わせを持ち、小さな楽しみを感じる。これがZ世代が映画館へ向かい、オンラインを楽しむ答えなのかもしれない。

Do the hokey pokey

ハリー・ポッターを見ていると、自分がマグルではなく魔法使いであると錯覚する。人生はある日ホグワーツの入学許可証が届くほど劇的ではないけれど、選択の連続であり、映画館を出た後、ポップコーンのかけらがシャツの下から出てくる、それもまた一興である。

（たかの ゆうこ：医学系研究所図書室）

ESTRELA ■2025年12月号
No.381/12月10日発行
B5判 64ページ
定価1,205円(税込)

〔特集〕小地域統計を用いた地域分析

■小地域統計データにおける4つの空間スケールを用いた人口分布の比較／
草野 邦明（群馬大学情報学部 助教）／（公財）統計情報研究開発センター 客員主任研究員

■小地域統計を用いた地理ビジネス環境判定システムの構築と地理ビジネス環境インデックスの応用／
高阪 宏行（ジオリーテイル（株）代表取締役）

公益財団法人 統計情報研究開発センター（Sinfonica）
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5階
TEL: 03-3234-7471 <https://www.sinfonica.or.jp/>

お米はどこから来て、どこへいく？
稻・お米・ご飯 全3巻

服部栄養料理研究会・監修・稻葉茂勝・著/こどもくらぶ・編



和の米騒動！2024年、さまざまな理由からお米が不足し、値上がりしました。いま、あらためてお米のことを考えるシリーズ。

① **お米の歴史**
稻作のはじまりから現代のお米事情まで

② **世界のお米**
主食がお米の国々に・世界のお米文化いろいろ

③ **学校とお米**
写真で稻作学習・学校でお米を作ろう

● 摂定価: 摂本体9,000円+税
● A4変型判・各32頁
● ISBN978-4-265-11184-8

この1冊が未来をつくる 〒112-0014 東京都文京区関口2-3-3-7F
岩崎書店 TEL 03-6626-5080 FAX 03-6626-5085

H. ランデモア／福家佑亮・小林卓人・小須田 翔・
田畠真一・山口晃人 訳
民主的理性
(上・下)



みんなで決める政治の正しさ
集合知からの応答。
上3300円・下3410円

T. モードリン／
J. エイムズ 監訳・谷村省吾 解説



物理学の哲学入門 I
空間と時間 時空の本性をめぐって哲学者が徹底分析。
3080円

けいそう けいそう書房 TEL 03-3814-6861 *価格税込
FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 <https://www.keisoshobo.co.jp>

叢書・知を究める 29

ブッシュマンの子育て
狩猟採集社会の自然誌

高田 明 著

四六判上製カバー272頁 2970円

著者による現地での長期フィールドワークを通じて、従来のイデオロギーには回収しきれないブッシュマン（サン）の豊かな文化や生活世界が見えてきた。本書では、彼らの子育てについての詳細な分析を通じて、人間と社会の成り立ちについて再考する。

ミネルヴァ書房 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1
TEL075-581-0296 *価格税込

**経済学を手がかりに、
都市と地方を論じてみよう**

佐藤泰裕 著

東京一極集中は是正すべきか？ 地方から東京への大学進学は抑制すべきか？ 人口減少で揺れる都市と地方の課題を、データと経済学で多角的に解き明かす。単純な二項対立を越えて、バランスの良い「落としどころ」を探る、政策議論のための必読書。



四六判 定価 1,980円

スポーツで社会学する

石岡丈昇 編

私たちの身近な楽しみであるスポーツについて真剣に考察することは、現代社会を批判的にとらえ、深く考えることにも発展する。そのため必要な理論や概念・論点、そして実践的な思考を身につけることをねらった、読んで楽しいテキスト。



四六判 定価 2,640円



有斐閣

東京都千代田区神田神保町2-17
<https://www.yuhikaku.co.jp/>

価格は税込

労働者の心の健康を保ち、心地よい職場を作るために！

働く人と職場を支える実践ガイド 松本桂樹(著)
こことキャリアの羅針盤

●予価 2,750円(税込) ISBN 978-4-535-98552-0

若手社員の適応支援、管理職研修、ハラスメント問題など、産業領域ならではの支援トピックスについて、その対応方針を解説する。

推し活の心理臨床

岩宮恵子(編)

心理臨床の場で出会う
「好き語り」をどう受け止めるか。

1/22
発売

こここの科学増刊

●予価 1980円(税込)

ISBN 978-4-535-90473-6

サバカルチャーと聖地の視点から
日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
TEL 03-3987-8621 <https://www.nippyo.co.jp>

朝廷・幕府・諸藩の関係が目まぐるしく変化した幕末期、
19藩の知られざる動向から、幕末政治史の
全体像を理解する

幕末維新史への招待 町田明広(編)

全国諸藩編

好評を博している
幕末維新史への招待
シリーズ第三弾！

山川出版社

四六判 272頁 ISBN : 978-4-634-15253-3 C0021 定価1,980円(10%税込)

〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-13-13 <https://www.yamakawa.co.jp/>

おい点P、

ニガテ民

のための

算数と数学の本

動くんじゃねえ！

とけいまわり著
2090円

分数や速さ問題など、絶妙に納得
できないテーマを競選。「そうだった
のか！」をめこんだ画期的入門書。

晶文社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-11
Tel 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>